

2. 全数把握対象感染症患者報告状況

(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)
二類	結核	156	147	143	136	123
三類	細菌性赤痢				1	
	腸管出血性大腸菌感染症	17	13	11	14	17
	パラチフス			1		
四類	A型肝炎	3				1
	重症熱性血小板減少症候群	8	4	1	9	
	つつが虫病	2	2	1		3
	デング熱	1			1	
	日本紅斑熱	6	10	4	12	7
	マラリア				1	
	ライム病	1				
	レジオネラ症	11	15	14	13	21
五類	アメーバ赤痢	4	3	3	7	1
	ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	1	2	2	2	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	3	8	11	7
	急性弛緩性麻痺（急性白髄炎を除く） ¹⁾			1		
	急性脳炎	3	1	4	2	
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	2	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		3	4	2
	後天性免疫不全症候群	6	5	9	4	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	2	1	4	5
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	6	9	11	7
	水痘（入院例）		2	6	5	3
	梅毒	11	14	30	30	23
	播種性クリプトコックス症			2	3	2
	破傷風	2	3	4		1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1
	百日咳 ²⁾			31	80	3
	風しん			3	2	
	麻疹			1	1	
※	新型コロナウイルス感染症 ³⁾⁴⁾					199

※新型インフルエンザ等感染症

¹⁾平成30年5月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

²⁾平成30年1月1日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

³⁾令和2年2月1日より全数把握対象疾患感染症（指定感染症）へ指定された。

⁴⁾令和3年2月13日より全数把握対象疾患感染症（新型インフルエンザ等感染症）へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

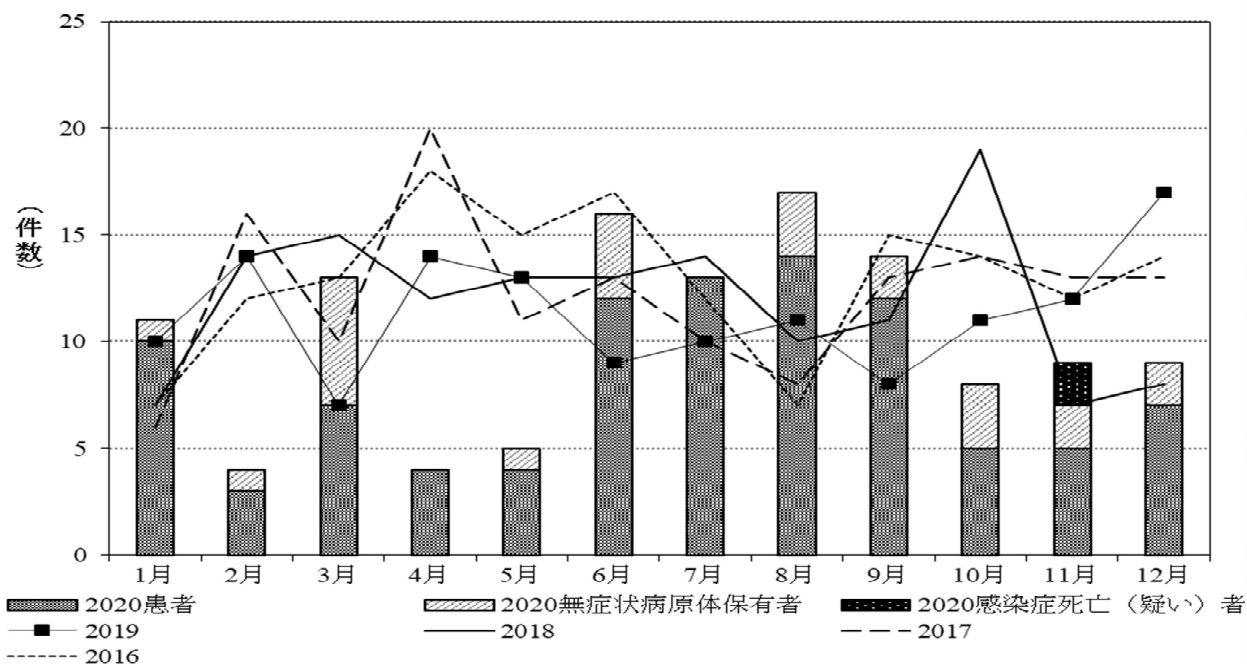
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

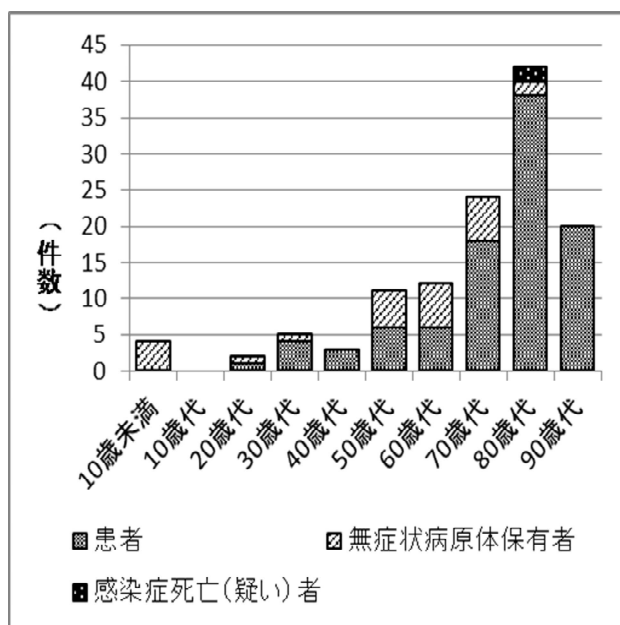
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	2	2	4
10歳代	0	0	0
20歳代	2	0	2
30歳代	1	4	5
40歳代	1	2	3
50歳代	5	6	11
60歳代	6	6	12
70歳代	12	12	24
80歳代	25	17	42
90歳以上	9	11	20
計	63	60	123

【年齢・症状別届出数】



2020年の年間届出数は123件であった。過去5年間の年間届出数は、2016年以降漸減傾向にある。

月別の届出数では、2月と4月が4件、5月が5件とやや少なかったものの、季節的な特徴はみられなかった。

診断の類型では、「患者（感染症死亡疑い者含む）」が98件（内訳：肺結核60件、その他の結核23件、肺結核及びその他の結核15件）と最も多く、「無症状病原体保有者」は25件であった。

年齢別にみると、70歳を超え年齢が高くなるにつれて増加し、70歳代（24件）、80歳代（42件）、90歳以上（20件）と、70歳以上の届出が合計86件と全体の約70%を占めた。

性別では、男性63件、女性60件とやや男性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、70歳以上では「患者」が約90%と大部分を占めたのに対し、70歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が約46%、「患者」の割合が約54%であった。10歳未満のみ「無症状病原体保有者」の割合が100%と高かった。

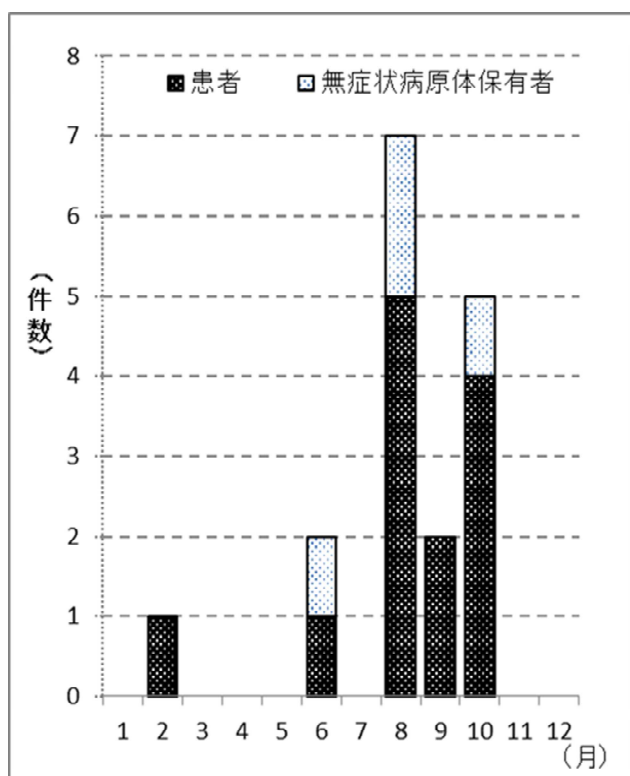
職業別では、医療・介護などの施設関係者や建設業、タクシー運転手等、人と接する機会が多く集団感染に繋がる環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し感染予防啓発、施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

《三類感染症》

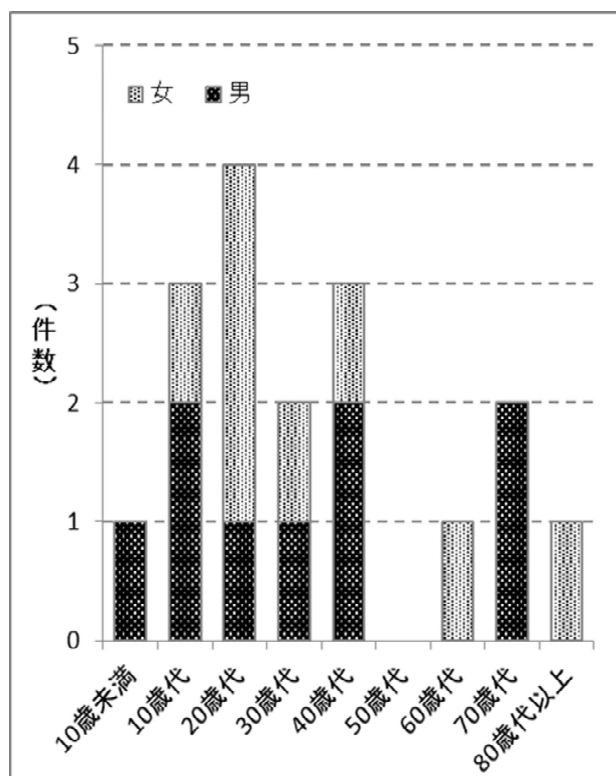
② 腸管出血性大腸菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	型別	推定感染地域
2月	男	10歳未満	水様性下痢、発熱、急性腎不全、溶血性貧血、溶血性尿毒症症候群	O157 (VT1, VT2)	国内
6月	女	80歳代	腹痛、血便	O121 (VT2)	国内
6月	女	40歳代	無症状病原体保有者	O156 (VT1)	国内
8月	女	30歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	男	70歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	女	60歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	男	40歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	男	70歳代	水様性下痢	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	男	40歳代	腹痛、血便	O157 (VT1, VT2)	国内
8月	男	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT1, VT2)	国内
9月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1, VT2)	国内
9月	男	10歳代	腹痛、血便	O157 (VT1, VT2)	国内
10月	男	30歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱	O157 (VT1, VT2)	国内
10月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O157 (VT1, VT2)	国内
10月	女	20歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1, VT2)	国内
10月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、嘔気	O111 (VT1)	国内
10月	女	20歳代	腹痛	O157 (VT1, VT2)	国内

【月別・症状別届出数】



【年齢・性別届出数】



2020年の年間届出数は、17件で前年（14件）からやや増加した。過去5年間の年間届出数は、毎年10件台で推移している。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出は、8月に7件、10月に5件で全体の約70%を占めた。

年齢別では、50歳代を除き10歳未満から80歳代まで幅広い年齢層で報告され、性別では、男性9件、女性8件で大きな差はなかった。

診断の類型では「患者」が13件、「無症状病原体保有者」4件と「患者」が多く報告され、症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐など複数の症状を訴えていた。血清型別では、本疾患の多くを占めるO157が14件、O121とO156及びO111がそれぞれ1件報告された。

「患者」報告例の感染経路や感染源は、肉の喫食等が5件、生肉喫食1件、不明7件でいずれも国内にて感染したと推定された。また、「無症状病原体保有者」4件のうち1件は焼き肉を喫食した「患者」との接触者検診から報告され、同じく焼き肉を喫食したことによる経口感染と推定された。

《四類感染症》

③ A型肝炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	20歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、肝腫大、肝機能異常	不明	不明

2020年の年間届出数は1件であった。過去5年では2016年依頼の届出である。

届出月は11月で、年齢及び性別は、20歳代の男性、感染経路、感染地域は不明であった。

④ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	90歳代	発熱、刺し口、発疹	つつが虫等からの感染	国内
11月	男	80歳代	発熱、刺し口、発疹	つつが虫等からの感染	国内
12月	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹	つつが虫等からの感染	国内

2020年の年間届出数は3件であり2年ぶりの届出であった。

届出月はいずれも患者発生報告が多いとされる冬から春先にあたる11月で、年齢及び性別は60歳代の女性が1件、80歳代と90歳代の男性が1件ずつであった。農作業や山仕事の作業中にマダニ等に刺咬され感染したと推定された。

徳島県では本疾患をはじめ、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群など、原因微生物を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年のように報告されている。重症化例も見られることより登山、林業、農作業など野外活動機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑤ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	女	90歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6月	男	70歳代	発熱、刺し口、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7月	女	80歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
8月	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
9月	男	80歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	男	80歳代	発熱、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

2020年の年間届出数は7件で、前年（12件）より減少した。過去5年間における年間届出数は6～12件と、年毎で差が大きい。

届出月は5～10月と、マダニの活動時期と一致する春から秋に集中していた。年齢は70～90歳代、性別は男性が4件、女性が3件であった。

感染経路は、レジャーや農作業等の野外活動において、マダニに刺咬されたと推定されている。

⑥ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	不明	国内
2月	男	70歳代	咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
2月	男	70歳代	発熱、咳嗽	水式便所利用	国内・国外
2月	男	70歳代	発熱、肺炎	塵埃感染	国内
2月	女	70歳代	発熱、意識障害、肺炎	不明	国内
3月	女	80歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
4月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	女	90歳代	発熱	不明	国内
6月	男	50歳代	発熱	不明	国内
6月	男	50歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
6月	男	80歳代	咳嗽、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
6月	男	80歳代	発熱	水系感染	国内
6月	男	80歳代	呼吸困難、肺炎	不明	国内
7月	男	60歳代	発熱、肺炎	不明	国内
8月	男	60歳代	発熱、意識障害、肺炎	不明	不明
9月	女	70歳代	発熱	不明	国内
10月	男	30歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、下痢	不明	国内
10月	男	70歳代	発熱、呼吸困難、下痢、肺炎	水系感染	国内
10月	男	100歳代	発熱、呼吸困難、下痢、肺炎	不明	国内
12月	女	80歳代	発熱、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全	不明	国内
12月	女	70歳代	発熱、咳嗽、腹痛、下痢	不明	国内

2020年の年間届出数は21件で、前年（13件）より増加した。2014年以前は毎年1～3件の報告数で推移していたが、2016年以降は漸増傾向にある。年間を通して発生し、季節的な特徴は見られなかった。

年齢別では30～100歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別は男性15件、女性6件であった。病型は19件が「肺炎型」で、2件が「ポンティアック熱型」であった。

推定感染経路は水系感染が5件、塵埃感染と海外にて水式便所利用が各1件、不明14件、感染地域は国内が20件、国内及び国外が1件と推定されている。

《五類感染症》

⑦ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	60歳代	下痢、粘血便	不明	国内

2020年の年間届出数は1件で、過去5年間では毎年3～7件報告されている。

年齢及び性別は60歳代の男性。病型は「腸管アメーバ症」、推定感染経路は不明で、感染地域は国内と推定された。

⑧ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	80歳代	自覚症状なし。（定期検査で判明）	不明	国内

2020年の年間届出数は1件で、過去5年間では毎年1～2件報告されている。

年齢及び性別は、80歳代の男性であった。

病型は「B型肝炎」、推定感染経路は不明で、感染地域は国内と推定された。

⑨ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
1月	男	60歳代	敗血症、胆管炎	膵癌による胆管閉塞からの感染	国内
1月	女	60歳代	胆管炎	膵癌による胆管閉塞からの感染	国内
3月	男	70歳代	尿路感染症	医療器具関連感染	国内
5月	男	70歳代	尿路感染症	医療器具関連感染	国内
7月	男	60歳代	肺炎	不明	国内
8月	女	80歳代	尿路感染症	以前からの保菌	国内
9月	男	80歳代	髄膜炎	以前からの保菌	国内

2020年の年間届出数は7件であった。過去5年間では毎年3～11件報告されている。

年齢は60～80歳代、性別は男性5件、女性2件であった。推定感染経路は手術部位や、医療器具を介しての感染が4件、以前からの保菌が2件、不明が1件、感染地域は全て国内で感染と推定された。

⑩ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	50歳代	進行性認知症、ミオクローヌス無動性無言状態、記憶障害	不明	不明
2月	女	70歳代	進行性認知症、ミオクローヌス視覚異常、精神・知能障害	不明	不明

2020年の年間届出数は2件であった。過去5年では2017年以降毎年1～3件報告されている。

年齢は50歳代と70歳代で、性別は男性1件、女性1件であった。

病型は、いずれも「古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）」、感染経路及び感染地域は不明であった。

⑪ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	女	50歳代	ショック、腎不全	創傷感染	国内
5月	女	70歳代	ショック	創傷感染	国内

2020年の年間届出数は2件で、過去5年間では0～4件報告されている。

年齢は50歳代と70歳代で、性別は女性2件であった。

推定感染経路は、いずれも創傷感染で、感染地域は国内と推定された。

⑫ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	男	20歳代	発熱、咽頭痛、皮疹、軽度呼吸苦	同性間性的接触	国内
6月	男	40歳代	難治性の口腔内・食道カンジダ症	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11 月	女	20 歳代	脳症による頭痛、けいれん、発熱	異性間び同性間性的接触	国内及び海外

2020 年の年間届出数は 3 件であった。過去 5 年間では毎年 4～9 件報告されている。

年齢は 20 歳代と 40 歳代、性別は男性 2 件、女性 1 件であった。病型は全て「AIDS」であった。感染経路は、いずれも同性または異性間での性的接触で、国内での感染が 2 件、国内及び国外での感染が 1 件と推定された。

本年はいずれも医療機関からの届出であったが、例年、県内保健所等を中心にした無料検査にて発見され、地域連携医療機関での診断、報告につながっている。

今後もハイリスク層や発生報告数の多い 20～50 歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、より積極的な普及啓発を推進し、HIV 感染の早期発見による早期治療と、感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑬ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	男	80 歳代	肺炎、菌血症	咽頭保菌からの誤嚥	国内
2 月	男	5 歳未満	発熱、菌血症	不明	国内
2 月	女	90 歳代	発熱	不明	国内
2 月	男	80 歳代	発熱、肺炎	肺炎からの血流感染	国内
11 月	男	90 歳代	発熱、肺炎、菌血症、中耳炎	不明	不明

2020 年の年間届出数は 5 件であった。過去 5 年間の届出数では、平成 30 年以前は 1～2 件で推移していたが、前年 4 件に続き 2 年連続で増加した。

年齢及び性別は、5 歳未満と 80～90 歳代の男性 4 件、女性 1 件であった。いずれも国内にて感染し推定感染経路は、咽頭保菌からの誤嚥と肺炎からの血流感染が各 1 件、不明 3 件。感染地域は国内 4 件、不明 1 件と推定された。

⑭ 侵襲性髄膜炎菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	女	90 歳代	発熱、全身倦怠感、意識障害、ショック、DIC、菌血症	不明	国内

2020 年の年間届出数は 1 件で、過去 5 年間では報告はない。

年齢及び性別は、90 歳代の女性で、感染経路は不明、感染地域は国内と推定された。

⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	80 歳代	発熱、咳	飛沫・飛沫核感染	国内
2 月	男	90 歳代	意識障害	不明	国内
5 月	女	5 歳未満	発熱	不明	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	50歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎	口腔気道	国内
6月	女	90歳代	発熱、肺炎、菌血症	不明	国内
7月	男	80歳代	発熱、咳、意識障害、肺炎	不明	国内
9月	女	80歳代	発熱、痙攣、意識障害、菌血症	不明	国内

2020年の年間届出数は7件で、過去5年間では毎年4～11件報告されている。

年齢は5歳未満が1件、50歳代が1件、80歳代～90歳代5件、性別は男性4件、女性3件であった。感染経路は、飛沫・飛沫核感染が1件、口腔気道感染が1件、不明が5件であり、いずれも国内で感染したと推定された。

⑩ 水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	40歳代	発熱、発疹、免疫不全	不明	国内
2月	女	20歳代	発熱、発疹、肝炎、DIC	不明	国内
5月	女	90歳代	発熱、発疹	不明	国内

2020年の年間届出数は3件で、過去5年間では2016年を除き毎年2～6件報告されている。

年齢は、20歳代が1件、40歳代が1件、90歳代が1件であり、性別は、男性が1件、女性が2件であった。感染経路はいずれも不明で、感染地域は国内と推定された。

⑪ 梅毒

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	30歳代	初期硬結（性器）、梅毒性バラ疹	同性間性的接触	国内
1月	女	70歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
1月	女	30歳代	鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）、梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	同性間性的接触	国内
2月	男	30歳代	倦怠感	異性間性的接触	国内
3月	女	30歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
4月	男	40歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
4月	男	70歳代	胃梅毒	性的接触	国内
4月	男	80歳代	眼症状	不明	不明
6月	男	40歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
6月	女	10歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7月	女	20歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7月	女	50歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	不明

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	20歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
7月	女	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器） 梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
9月	女	40歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
10月	男	40歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
10月	男	20歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	不明	不明
10月	男	30歳代	初期硬結（性器）	不明	不明
11月	女	80歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
11月	女	20歳代	硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
11月	男	80歳代	眼症状	不明	不明
12月	男	30歳代	丘疹性梅毒疹	性的接触	国内
12月	男	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内

2020年の年間届出数は23件であった。過去の年間届出数推移では、2015年以前は毎年2～3件の届出数で推移していたが、2016年以降11～30件と増加している。

年齢別では、10～40歳代で17件、50～80歳代で6件と若年層に多く、性別では男性13件、女性10件と男性が多かった。感染地域は、国内が15件、不明が8件であった。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。

HIVと同様に、発生報告の多い10～40歳代を中心に、感染者及びパートナーともに積極的な感染予防啓発の推進が重要と考えられた。

⑱ 播種性クリプトコックス症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	70歳代	頭痛、意識障害、項部硬直、中枢神経系病変	不明	国内
11月	女	80歳代	発熱、意識障害、中枢神経系病変、 真菌血症	不明	国内

2020年の年間届出数は2件であった。2014（平成26）年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定された。過去5年間では2018年に2件、2019年に3件報告されている。

年齢及び性別は、70～80歳代の男性1件、女性1件であった。感染経路は2件とも不明であるが、1件は免疫不全が原因と推定され、感染地域は国内と推定された。

⑲ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	女	70歳代	開口障害	創傷感染	国内

2020年の年間届出数は1件で、過去5年間の届出数は2～4件で推移している。

年齢及び性別は、70歳代の女性で、感染経路は創傷感染、国内にて感染したと推定された。

⑳ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	90歳代	腹膜炎	腸管内穿孔による感染	国内

2020年の年間届出数は1件で、過去5年間では報告はない。

年齢及び性別は、90歳代の男性で、感染経路は腸管内穿孔による感染、国内にて感染したと推定された。

㉑ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2月	女	10歳未満	夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
3月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、スタックカート、ウーブ	不明	不明
5月	女	60歳代	持続する咳	不明	国内

2020年の年間届出数は3件であった。百日咳はこれまで小児科定点把握疾患として報告されていたが、2018（平成30）年1月1日より、五類全数把握対象感染症に指定された。2018年の届出数は31件、2019年は80件と大幅に増加していたが、2020年の年間届出数は3件と大幅に減少した。

年齢は10歳未満2件、60歳代1件、性別は、男性1件、女性2件であった。感染経路は、学校関連の感染1件、不明が2件であった。感染地域は、国内2件、不明1件であった。

《新型インフルエンザ等感染症》

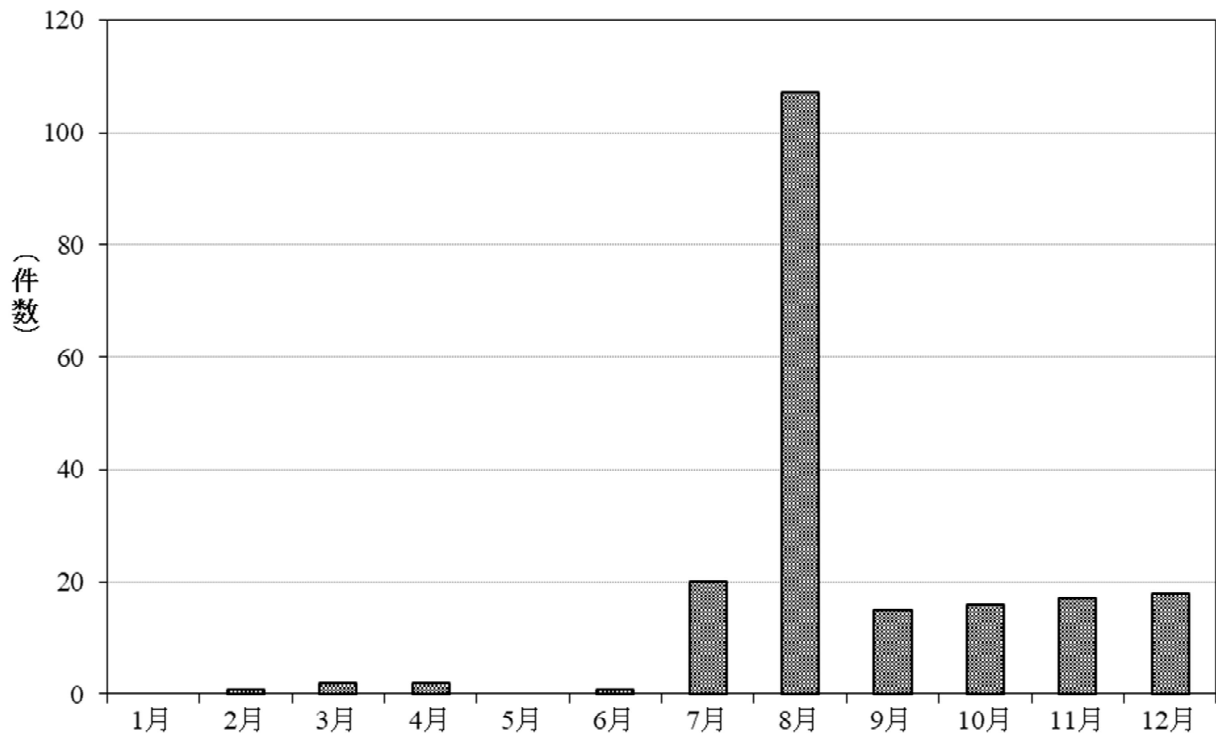
㉒ 新型コロナウイルス感染症

2020（令和2）年2月1日より指定感染症に制定され、2021（令和3）年2月13日からは、期限の定めなく対策が講じられるよう、新型インフルエンザ等感染症の中に新型コロナウイルス感染症、再興型新型コロナウイルス感染症を追加することと改正された。

2020年の年間届出数は199件であった。月別の届出数は県内1例目の届出があった2月以降、5月を除き毎月届出があった。8月が107件と全体の約54%を占め最も多く、次いで7月、12月の順に多かった。8月は高齢者施設など4カ所でクラスターが発生し、全国的な感染拡大（第2波）を受けた形となった。

年齢別にみると、20歳代の届出が43件と全体の約22%を占めたが、他は全年齢層で報告され、性別では、男性106件、女性93件とやや男性が多かった。

【新型コロナウイルス感染症の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	1	1	2
10歳代	7	8	15
20歳代	27	16	43
30歳代	11	5	16
40歳代	8	6	14
50歳代	16	10	26
60歳代	19	8	27
70歳代	13	10	23
80歳代	4	13	17
90歳以上	0	16	16
計	106	93	199

【年齢別届出数】

